

## [2007.08.23・24] 特別支援教育研修講座を開催しました

8月23日(木)・8月24日(金)、人間関係学部臨床心理相談室が主催し、特別支援教育にたずさわる教育関係者・スクールカウンセラーなどを対象とした研修講座を開催しました。この企画は、平成15年度から開催されており、今年度は4回目となる講座です。当初からの参加者もあり、教育現場において取り組みは少しずつ着実に展開してきていることが窺われました。

さて、本研修講座の特徴は、本学教員による講義と教育現場において先進的実践を行っている講師による講義、そして、参加者の問題意識や現状における課題をもちよって討論する形で進められた実践事例検討会でした。23日は、本学教員による「認知心理学から見た認知障害(増井教授)」「発達障害のある子どもの検査における課題とその支援(西出准教授)」、津市西橋内中学校教諭で特別支援教育コーディネーターを担当していらっしゃる後藤勝弘先生の講義「中学校における認知特性に応じた支援一個の教育的ニーズに応じた支援のために一」でした。後藤先生の講義では、単語の習得に大きな課題のあった生徒との実践をご紹介いただき、文字の習得がめざましく改善し、生徒自身の学習に対する動機づけや自信も回復したことが、参加者の実践への意欲を活性化したようです。

24日には、本学教員による「児童青年精神医学的な立場からの医療の役割(大井教授)」、「校内・親との連携について(中西教授)」、四日市市高花平小学校教諭で四日市市地域特別支援教育コーディネーターを担当していらっしゃる矢田昌也先生の講義「四日市における特別支援教育一連携一」でした。矢田先生の講義では、四日市市独自の取り組みである地域特別支援コーディネーターの役割や連携の取り方、先生のお立場からみた学校における特別支援教育の取り組みの課題などについてお話をいただきました。

両日にわたって開催された、小グループによる実践事例検討会では参加者が日頃の悩みや問題意識を共有する場となり、また、地域や立場による実践や課題の相違を見出す機会でもあり、好評のうちに閉会となりました。

